Vol. 102

冒険賞を受賞した。

での功績が認められ、 発見するなど大きな成果を $\frac{2}{0}$ 9年にはこれま 世界

事象を解き明かすのが探 があり、行動の先に未知の 人物に贈られる、植村直己 に挑んだ創造的な勇気ある 氏にちなみ、人間の可能性 的冒険家の(故)植村直己 一冒険は行動自体に目的

活動を支える原動力植村直己冒険賞の受賞

2018年には、考古学上 約二千年前の仏教寺院跡 る南東部のジャングルで、 の最後の空白地帯といわれ を発見してきた岡村さん。 探査で258か所の遺跡 先住民の残した岩絵を

危険が潜んでい

は、 を決意した。 象に残っていた岡村さん が大事だ」という言葉が印 ジャングルにはさまざまな や猛獣、道迷い、滑落など、 非常に苦労するという。 さん。探査中は水の調達に 遺跡探査を続けてきた岡村 いると感じ、 いることを続けていくこと 半世紀もの長きに渡って 植村さんに励まされて マラリアなどの病気 受賞すること

る。そんな環境に身を置き、 やかな人々が暮らしてい 代の記憶につながるものが のような国。 かな自然を持つ世界の縮図 多言語、多宗教、そして豊 しい自然がある一方で、 って癒されます」。 ジャングルという荒々

という想いも岡村さんの 村の人々と交流していたい 穏 てきた。 発見したいという好奇心 体を動かして未知のものを 岡村さんを突き動かし 現場を踏み、 身

縁のものだと考えていた。

しかし、

生前の植村さん

「お互いに自分のやって

検」と話す探検家の岡村さ

んは、冒険賞は自分には無

「スリランカは、 小林で過ごした幼少時 心が穏やかにな 水田稲作の国 多民族、

② 2016 ~ 2018年に活動したスリランカ南東 部のジャングルの様子。下同ジャングル内のタラグ

ルヘラ山で遺跡を次々と発見する様子(2018年)

▲ 2018年の探査では、顔料で描かれた先住民ヴェッダ族の岩絵 を発見した。また、同探査では、タラグルヘラ山でイギリス人の測 量隊が地図に記録していた遺跡も約 100 年ぶりに再発見。この遺 跡の仏塔跡付近の岩壁に刻まれた古文字から、約2千年前の遺跡 であることが判明するなど、大きな成果を上げた。

動力になってきた。

地道な活動を積み重ねる けるところまで」

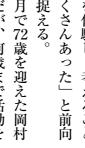
影響で急きょ中止に。 コロナウイルス感染拡大の 行う予定であったが、 ランカに渡って探査活動を し、「焦ってはい 本来ならば、 今年もスリ ない ن ځ しか 新型

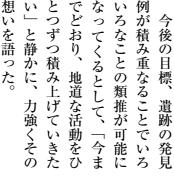
岡村さん。 て滅んだとされる古代シン12世紀に疫病を一因とし ラ文明と現代を重ね合わ 12世紀に疫病を一 「文明が滅びるとはど うことか、 疫病の恐ろ

> きに捉える。 がたくさんあっ しさを体験し、考えること た」と前向

らず、「いけるところまで 続けるのかは全く考えてお さんだが、 いきたい」と話す。 先月で72歳を迎えた岡村 何歳まで活動を

地道な活動をひ 一今ま









さん(72歳)

破壊された「三尊像」。宝石目当ての 盗掘とみられ、頭部が破壊されている。